

しあわせの村の新たな取り組み(案)

② (1) パラ・スポーツの振興

パラリンピックや世界パラ陸上で盛り上がる機運を活かし、障害の有無に関わらないパラ・スポーツ体験機会の提供やパラ・スポーツアスリートの育成、eスポーツの活用を進め、屋内運動施設と運動トラックなど屋外運動施設の一体的活用も検討する。さらに、スポーツ関連企業などとも連携した取り組みを進めていく。

パラ・スポーツアスリートの育成

- パラリンピックや世界パラ陸上の機運を活かし、国内でも対応できていない競技志向のパラ・スポーツアスリートの育成拠点を創出
- パラ・スポーツ選手団の合宿誘致
- ノーバリアゲームや超人スポーツ体育会、未来の運動会等の新しいスポーツ大会を定期開催
- パラ・スポーツ教室の拡充



施設整備・連携

- スポーツラボの機能として「パラ・スポーツ工学研究所」を設置
- 将来的にパラ・スポーツメーカーやベンチャー企業とも連携して、義足等のパラ・スポーツ用品の開発を推進
- 隣接の陸上トラックや体育館等への利用を促進（更衣室・レンタル用品の充実）



eスポーツの活用

- 生きがいづくりや交流・社会参加機会としてのeスポーツの活用の実証事業を実施
- 場所や時間による制約の少ないeスポーツによって、多様な人々との関わりを産み出す

② (2) 認知症予防・共生の全市拠点（おれんじ・パーク）

2019年4月から認知症「神戸モデル」が本格的にスタートしており、認知症に対する関心が高まっている。このため、認知症の予防につながるとされる様々な取り組みを行うとともに、認知症に関する市民への正しい理解を進め、神戸市の認知症施策の情報発信を行うための拠点（神戸おれんじ・パーク）を整備する。

認知症の予防

- 医療機関と連携し、軽度認知症疾患（MCI）と診断された方を対象に運動等のプログラムを提供する。
- 運動に加え食生活などを含め、生活習慣全体の指導プログラム検討



認知症の共生

- 認知症の人同士などが集い、相談しあえる場である「ピアの集い」を定期的開催
- 認知症の人が社会参加できる仕組みとして、ゆるやかに働けるレストランなどを開催
- 認知症に関する講演会や回想法の実践・体験等ができる、認知症予防啓発イベントを実施
- 認知症サポーター養成研修を定期的開催



普及啓発・予防事業を村内で展開していき、認知症の人にやさしいまちづくりを推進

② (3) あらゆる子どもの成長支援

子どもは「あそび」を通して心身ともに健やかに成長・発達することから、子どもが様々な「あそび」を体験・経験できるフィールド・施設を整備する。

子どもの遊びプログラムコーディネーターを配置し、自然に恵まれた環境の中で、色々な体験ができるプログラムを用意し、乳児期、幼児期から学童期まで切れ目のない「あそび場」を提供する。また、障害のある子どもも利用することができる場とし、健常者との交流や障害児者の理解を深める活動を行う

既存施設を転用した 屋内型のおそび場

- 既存施設のリニューアルに伴い、雨の日でも安心して利用できる屋内型遊び場を整備
- 乳児期から学童期まで切れ目なく楽しむことができるコンテンツの提供



自然を楽しむ 多様なプログラム

- 村の敷地内外の豊かな自然や里山環境を楽しみ学ぶことができるネイチャーゲームなど、多様な野外プログラムやイベントの提供



障害のある子どもが 利用できる配慮

- あそび場におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインの導入
- 障害に関する知識・経験の豊富な専門スタッフによるあそびのサポート



多様な体験・経験ができる「あそび場」を提供し、あらゆる子どもの福祉の増進をめざす

(イメージ画像 出典)ポーンランドHP, NPO法人森のようちえんHP, 多機能型放課後等デイサービス(ポーンランド運営)プレスリリース

② (4) 動物とのふれあいを通じた交流

動物とのふれあいを通じた心身の健康や人々の交流を図るため、人と動物との共生する社会実現に向けた取り組みを展開。しあわせの村では、これまで近隣の動物管理センターが担ってきた譲渡事業・飼育管理機能に加え、アニマルセラピーや子ども達へのいのちの教育など、共生啓発機能を強化充実させる。

運営にあたっては民間活力も最大限活用し、官民相互の協力により人と動物とのふれあいによる「共感性」を活かした様々な取り組みにより、ソーシャル・インクルージョンの実現をめざすとともに、神戸のまちの魅力アップを図る。

共生啓発機能【強化充実】

- 動物とのふれあい(アニマルセラピー)
- 子どもを対象とした教育活動(いのちの教育)
- 飼い方教室(犬のしつけ方教室、飼育相談)
- 飼育者支援(相談業務)
- 各種イベント、情報提供・リサーチ



飼育管理機能・譲渡推進機能

- 飼育管理機能
 - 犬猫の飼育保管(給餌・清掃等)
 - 犬猫の健康管理(診察治療等)
 - 犬猫の社会化(しつけ等)
- 譲渡推進機能
 - 犬猫の譲渡適性判定(健康状態、気質による判断)
 - 犬猫と飼育希望者のマッチング
 - 飼育希望者講習会
 - 譲渡後フォローアップ(アケト、自宅訪問、同窓会…)
 - 犬猫見学者対応

人と動物の共生をコンセプトとした取り組みにより、神戸のまちの魅力アップを図る

③ (1) 新たなユニバーサル社会構築の実験

「健康福祉関係のMICE拠点」として村内施設を活用し、村で生活する障害者や高齢者が、自らのアイデアでより快適な生活やしごとを得ることができる拠点となることを目指す。そのためのエンジン装置としてアイデアソン・ハッカソンを定期的に開催し、村内での実証実験を継続的に行う。

また、高齢者や障害者の移動支援など、ユニバーサル社会の実現に向けた新しいテクノロジーを発信し、しあわせの村内を実証実験の場として実現に向けた支援を行う。さらに、将来的な自動運転技術導入を目指して、村内巡回バスなども活用。

将来的には、実用化によるしごとの創出まで視野に入れ、あらゆる障害者や高齢者が主体的に活躍するための、神戸市全体のプラットフォームを目指す。

健康福祉関連のMICE・スタートアップ企業等の支援

- 健康・福祉目的の会議、研修等の誘致、開催支援
- 障害者、高齢者、スタートアップ企業等が参加し、快適な生活や、しごとを得るためのアイデアソン・ハッカソンの開催
- 上記参加者が村内の施設において開発ツールの実証実験を実施
- 実用化により、市内外の障害者や高齢者の雇用の創出につなげる



新たなユニバーサル社会構築の実験

- 先端事業者と連携した自動運転の実証実験
 - 歩行空間における新たなモビリティサービスとして、自動運転技術を活用した電動車椅子などが、市民の移動手段になり得るか検証をする。(自動運転の受容性と技術的な検証を実施)
 - 健常者/障害者の外出機会の創出を促し、ユニバーサルデザインの推進に資するか検証。
- AIによるデマンド対応、ルート設定、自動運転を可能とする循環バスの改良・新規創案の実証運用
 - 既存実績も踏まえ、村内においてさまざまな実証を展開
- 更なる次世代交通の実証の検討
 - 空中タクシー：国外で実証開始事例あり。



神戸市全体のノーマライゼーションプラットフォームへ